

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 高校生インターンシップ推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 高校教育課 高校総合支援係 電話番号：058-272-1111(内8657)

E-mail：c17786@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,293 千円 (前年度予算額：2,377 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,377	0	0	0	0	0	0	0	2,377
要求額	2,293	0	0	0	0	0	0	0	2,293
決定額	2,293	0	0	0	0	0	0	0	2,293

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

高校生が一定期間、企業や商店等で就業体験をすることで、働くことの意義や将来の生き方、進路について考え、働くことに対する望ましい勤労観・職業観を育成する。

(2) 事業内容

①対象者

県立高等学校生徒

②期間

専門高校等 3～5日間 普通高校 3日間程度

③実施予定生徒

県内すべての県立高校(63校)

④実施先

建設業、製造業、卸・小売業、サービス業、金融業、病院、福祉施設、保育所、幼稚園、図書館、農家等

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
保険料	2,293	生徒保険料
合計	2,293	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第4次岐阜県教育ビジョン
 施策Ⅱ 「未来を創る確かな学力と実践力」の育成
 1.3 学びと将来とをつなぐ、地域と連携したキャリア教育の充実

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略 施策編
 1 「清流の国ぎふ」を支える人づくり (1) 未来を支える人
 ②地域の声を反映した産業教育の展開 キャリア教育の推進

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
県内すべての県立高校において、インターンシップが体験できる体制を整備する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①インターンシップ実施校	/	58校	63校	63校	63校	92.1%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	インターンシップ実施実績 県立高校16校、実施生徒1,260人
令和 3 年度	インターンシップ実施実績 県立高校44校、実施生徒3,285人
	指標① 目標： <u>63校</u> 実績： <u>44校</u> 達成率： <u>69.8</u> %
令和 4 年度	インターンシップ実施実績 県立高校58校、実施生徒6,017人
	指標① 目標： <u>63校</u> 実績： <u>58校</u> 達成率： <u>92.1</u> %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	働くことの意義や将来の生き方、進路について考え・働くことに対する望ましい勤労観、職業観を身に付けることにつながるため。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	県立高校58校が実施計画書を提出している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	実施計画書の内容を精査し、インターンシップを実施している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 令和4年度より学年進行で実施されている高等学校学習指導要領において、「産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験活動の機会を積極的に設ける」ことが示されているため、インターンシップ実施希望者が増えても円滑に対応して実施する必要性がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内すべての県立高校において、インターンシップが体験できる体制を維持・促進する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	